

〔西宮市立中央病院 小児科〕

研修の特徴と内容

【基本理念と特徴】

核家族、少子化の中で世の中全体が育児力を失ってしまった現在、小児科医が果たす役割は大きい。当院小児科では、地域のプライマリケアを担う病院として、新生児から中学生に至るまでの広範囲にわたる、多くの一般的疾患や育児上の問題等に、日々遭遇し、解決またはサポートを求められている。また地域の当番として夜間の小児救急医療も行っており、小児医療におけるプライマリケアの研修が実践的に行える。この研修は、将来何科の医師になったとしても、「赤ちゃん」「こども」と聞いても抵抗なく診療できる医師になるために役立つと思われる。

【研修内容】

- ① 入院患児に対し、状況に応じてその養育者、特に母親との間に信頼関係をつくりながら、有用な病歴を聴取し、年齢に応じた適切な診察を行い、記録ができるようになる。
- ② 診断・治療のために必要な手技（採血、静脈点滴等）ができるようになる。
- ③ 各年齢の特性を考えて、検査の結果を判断できるようになる。
- ④ 小児科における代表的な疾患に関して、病態を理解し、適切な治療方針をたてられるようになる。（突発疹等のウイルス性発疹性疾患、溶連菌感染症等の細菌感染症、気管支炎、肺炎、胃腸炎、気管支喘息発作、熱性けいれん、川崎病等）
- ⑤ 夜間の小児救急医療を経験する。
- ⑥ 予防接種の基礎的な知識を得る。

【教育に関する行事】

- | | | |
|-----|-------------|--------------------|
| 月～金 | 8:30～8:45 | 入院患者に関するショートミーティング |
| 月 | 17:00～18:00 | カンファレンス |
| 木 | 17:00～18:00 | 抄読会（月1回） |

指導医等

部長：門谷 眞二

研修実施責任者

部長：門谷 眞二